

# おお大勝利

令和4年度 山東サッカー部報第3号 (4月27日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

## 県3部リーグ第3節 薄氷を踏む連勝！

4月25日(日) **高円宮杯U18山形県リーグ2022の3部A第3節**が行われました。前節は複数得点、無失点での勝利。内容は一方的ではなかったが、いろいろ前向きに評価できる点があった。さあ、前期優勝、2部昇格に向けて、連勝したい。

会場は人工芝の山形明正G。ピッチ状況や天候は問題ない。相手は山形中央C。Aにも勝てるチームになりたいのに、Cに負けてられないというのが本音だが、同じカテゴリーということは同じような実力ということ。真摯に、謙虚に、得点を狙い、失点を防がなければならない。特別、内容面で注文はつけませんでした。後半も勢いが落ちない戦いはぜひ目指したい(第1節、第2節は後半勢いが急落した)。そう伝えて送り出す。先発メンバーは、CBシカマが念のための自宅待機となったので、前節右SB先発のゴッチャンをCBにして、右SBに3年ミズキを起用。左SHには1年ショーゴを再び先発で起用。**清野総監督(山東サッカー部後援会名誉会長)**と**後藤報道局長**は前節同様いらっしゃり、今節は清野総監督と山東サッカー部同期の**工藤先輩**も久しぶりにいらっしゃる。お三方はチームスタッフとして登録済み。県リーグは相変わらず無観客での実施のため、保護者の方は残念がっていることでしょう。

さて、試合が始まると、まずは陣地の取り合い(という名の蹴り合い)。ダイレクトな攻撃(相手ゴールを直接的に狙う攻め)に対して守備で怯むようだと、「試合の入り」で流れを持って行かれる。もちろん、足元の技術がしっかりあれば、蹴り合いで後手踏んでも、試合が落ち着く時間帯に攻勢に出られるものの、**経験的に言って、足元上手いチームは蹴り合いでも強い<sup>1</sup>**。だって、ボールにしっかりミートして跳ね返すのも、体勢が悪くても大きく蹴り出すのも、アバウトなボールを大きく蹴り出すところにしっかり収めることも、**すべて技術が物を言う**。そして、**ヘディングも忘れてはいけません、技術**。ヘディングを技術から外して、軽視してほしくない<sup>2</sup>。その序盤は一進一退。山東はボランチのところでしっかり跳ね返す<sup>3</sup>、ボール奪取することができているので、攻めが厚い。ただ、最後のクオリティに欠けるので、決定機まで行かない。**ショーゴ**には固さが見られ、勝負の決断に狂いがあった。**3年FWカナタ**は相変わらずボールを前方に運んでくれるものの、単独ではすべてを突破できない。縦突破の多い**2年右SHマサツナ**は中にカットインして良い状況を迎えるものの、あわてんぼうなので、その後のパスが通らない。山形中央はFWにスピードのある選手がいて、前半の前半、山東の選手がボールを奪いきれず、二人で囲んだものの軽い対応だったのを尻目に、二人ともぶち抜いて、GKと1対1。しかし、そこで慌ててすぐ(ゴールに近

<sup>1</sup> 逆「蹴り合いで強いチームは足元もある」は必ずしも成り立たない、とは感じます。

<sup>2</sup> このように言わなければならないほど、中学生年代で軽視されていると思います。まあ、いろんな事情があるのかもしれませんが。明らかに以前より、ヘディングができない高校生が増えている。そもそも落下地点が読めない、ミートとか体の使い方とか以前の問題。この部報で以前、小さい頃野球をしてこない(フライの捕球をしてこない)高校生が増えたからじゃないか、などと推測したこともあります。

<sup>3</sup> 特に、ボランチ二人とも、ヘディングが素晴らしい。あそこで跳ね返すので、CBは楽です。

づかず) シュートを打ってしまい、そしてそのシュートはコースが悪く、山東**3年GK ジャッカル****ことソウゴ**の正面に飛び、ジャッカル難なくキャッチ、と思ったら、**ジャッカルがいたのはペナルティエリアの外**だった！ 山東ベンチ「ヤバイ、赤だ(決定機阻止の一発レッドカードだ)」と焦りましたが、その日の主審は「何でもないボール(決定的なシュートでもないボール)をGKが場所を誤って手で触れた」と解釈したのか、出されたのは黄色の紙。相手のFKも外れたので「助かった～」と胸を撫で下ろす。さて、山東の攻撃にて前節に続きCKはよくゲットした。そして、**キッカーの3年左SB コンニャクことショータ**のキックも悪くない。後は飛び込むだけなのだが、そこでねじ込むことのできる選手が少ない。前半中盤、山東CK後に、山形中央ゴール付近のゴチャゴチャからボールが出たところを**3年グッチがダイレクトシュート一閃!** ボールはそんなにサイドに飛んだってわけじゃなかったものの、いきなりの急襲に慌てたGKの手をかすめ、**山東の先制**。どっちつかずの展開の中でゴールを決める力は、最後は個のクオリティ以外ない。ボランチとして攻撃のタクトを振るうだけでなく、ゴールまで決めてくれた。その後、**もう一人のボランチ3年シュンスケ**も負けられないとばかりにミドルシュートをうかがう。どっちかと言うと、山東優勢の前半か。1-0でハーフタイム。

後半は、疲れの見た左SHショーゴと、前半最後に足をひねってしまった右SHマサツナとに代えて、ショーゴと同じジェラール出身の**1年アユム**と、「うちは選手の伸び代作ってますから」と嘯く名監督率いるアスキー出身の**1年ソウタ**を投入。そうなんです、この日、1年生をたくさん(5人)メンバー20人の中に入れました。1年生をすぐたくさん使わなければならないほど、2・3年生の層が薄かったということだし、今年の1年生が2年と比較するとまずまずのレベルだということ。後半15分には、CBの位置でジェラール出身の**1年ホスト**も投入したので、この日1年生4人がプレーしたことになる。**出場できない2年生は特に発奮してもらいたい**。そんなやりくりの苦しい山東、後半もどちらかと言うと優勢だが、お互い決定機を得ていないので、どっちもどっち。そんな中、グッチが相変わらず泥臭い球際で相手攻撃を食い止めていると、山東ゴールを背にして右奥の場所で(山東からすれば厳しめの)ファールを取られてしまった。「こういう(疑惑の)セットプレーで失点しちゃうと、ケチがつくんだよな～」と思いながら見ていると、相手が右足で巻いたボールがファーサイド上に飛ぶ。それをGKジャッカル、目測を誤ったのと、声をかけなかったのとで、グッチや相手と交錯してしまい、**FKのキックがそのままゴールイン。1-1の同点**となる。このような触っても一点、触らなくとも一点というFK、有効なんです。今回はジャッカル誤りましたが、誤らなくとも、前でヘディング合わせるボールだとGKはFKの軌道に入れにくい。それでヘディングが合わなかったけどそのままゴールに入る、なんてことは結構ある。山東も参考にしたいプレーだった。その後、山東は勝ち点3を目指して攻勢に出るも、なかなか入らない。山東が逆に疑惑のFKを得たときは、「もしかして今日はそういう日？」と思ったが、コンニャクが放った素晴らしいボールは、グッチとシュンスケがゴール前でヘディングダブってしまい、合わせるだけで一点のチャンスを逃す。しかし、こういうチームのピンチで得点するのがエースなんでしょう。**カナタ**がどんな状況でだったか忘れたが、好パスを受けてゴール前で混戦に突入。「ツータッチで打っとけばもっと簡単に入ったのでは？」と感じた混戦だったが、その中でゴールに強引に押し込み、**勝ち越し点ゲット**。その後もいろいろあったが・・・そういえば、どの時間帯だったか忘れたが、簡単に真ん中ぶち破られ、CBヤマトがファールしてあわやPK献上かというシーンあったが、ギリギリFKだったようで、そのFKも外れて事なきを得たなんてこともありましたね。勝ちには勝ったが、**薄氷を踏む勝利だった**ということ間違いありません。

応援ありがとうございました。**次はいよいよMリーグ、地区総体**です。別紙にて、その予定ご確認ください。**地区総体明正会場は、カメラマンの保護者の方のみ観戦可能です!**